

2026年度

高崎経済大学 地域政策学部

社会人選抜 試験問題

小論文（9：30～11：00）

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は2ページ、解答用紙は1枚あります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答には筆記用具、消しゴム以外のものは使用してはいけません。
- 5 解答用紙の※印欄には、何も記入してはいけません。
- 6 問題冊子は、持ち帰ってください。

問題 以下の文章を読み、設問に答えなさい。

生徒を教室に集め、同じ価値で人を大量生産する時代は終わり、AI・ロボットにない能力を身につけないと、人は役割を得て生きていけなくなるかもしれない。世代責任を果たすために、私たちはどんな未来投資ができるのか……。

①学校は何のためにあるのか（小学校～大学まで）

社会人になる準備のため存在することに異論はないだろうが、今の学校が社会の変化と将来につながっているかは疑問である。2019年度・日本財団が実施した「18歳の意識（国際）調査」によると、「社会的責任を持ち自分で社会や国を変えられるか」という質問について、日本はダントツの最下位にあるが、若者の社会的意識が低いのは親や教師を含む大人の意識を反映しているものだろう。

②私学や一部の公立校は5年、10年、様々に挑戦し様変わりしつつある

参加型で対話しプレゼンテーションをし、地域との連携や外部人材との交流が徐々に進んできたし、文部科学省の幹部も「教室と社会がつながれば学習意欲は向上する」と発言している。しかし現実には、多くの学校は本来の目的と手段を混同させる旧態依然とした体質が残っていそうだ。生徒を目的が曖昧なルール下に置き、評価のためのテスト重視で、実社会では何が必要かとは無関係に、手とり足とりの指導が続いていることが多い。社会常識を身につけ、受験に備える理由はあるが、「みんなで仲良くしよう」などのスローガンは、自律につながっているとは限らない。

③人材育成の柱にはどんな手法があるのだろうか

- ・ 知の伝授⇒（今までの中心） 知識の習得⇒AIには到底叶わない
 - ・ 知の活用⇒（未踏の分野） 社会的連携⇒学校内で賄うことは難しい
- 具体的にどうすればいいのか。

特に知の活用について、未来の社会人を育てるために、子どもの頃から様々な分野で活躍する一流のプロフェッショナル100～200人に直接会える機会を教師や大人がたくさん作る。世の中には凄い人がいる、こんな面白い仕事がある、こんなに格好良い人の指導を受けたいなど、意欲を喚起することが知の活用の第一歩ではないか。

④生徒や若者が未来への夢を描ける環境を作ることが教育課題としての公共政策

「学校が社会の変化と将来につながりにくい現状」は後述するように、近年いくつものデータで立証されている。現状を補うためには、教員任せでなく社会で活躍する各界のプロフェッショナルに直接会う機会を増やして生徒や若者が未来への夢を描ける環境を作れるよう、コミュニティの力で支えることが「教育課題としての公共政策」ではないか。

従来の教育の延長だと、行政の力だけでは発想力でも限界が生じており、民間やシビック団体を巻き込んでいくしか、解決の手立てが見えてこない。新しいニーズへの対応や既存サービスの補完は、政府による公共政策というより、民間やシビック部門と連携する「公共経営」をどう進めるかが課題となるだろう。

（出所：早稲田大学公共政策研究所編『地域から公共政策を考える』早稲田大学出版部、2022年を一部改変）

設問 問題文の筆者は、「従来の教育の延長だと、行政の力だけでは発想力でも限界が生じており、民間やシビック団体を巻き込んでいくしか、解決の手立てが見えてこない」と述べている。

この議論を地域社会まで広げた場合、地方自治体、企業などの地域社会はいかなる役割を求められるであろうか、あなたの意見を 1000 字以内で述べなさい。